

# 少年野球育成 習志野に土台

大村泰輝君（左）、弟の倫輝君と父の功治さん＝習志野市



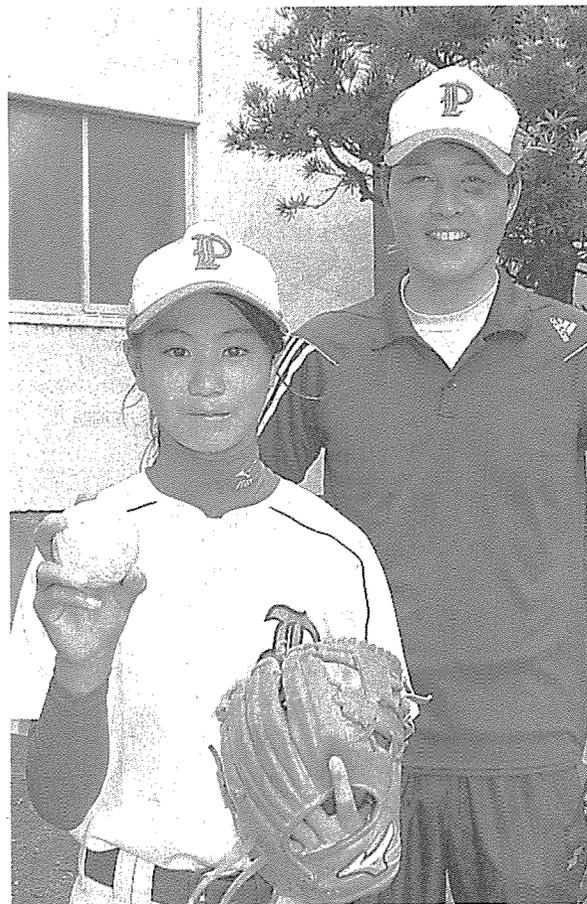
## ロッテ・福浦選手もプレー

### 試合の機会多く、夏季大会50回目

習志野市の少年野球チームで組織する市少年野球連盟の夏季大会が今夏、50回

を迎える。連盟には現在、市内13小学校の26チームが所属。連盟チームには、プ

ロ野球通算2千安打を達成した千葉ロッテマリーンズの福浦和也選手も、かつて



釈迦堂愛琴さん（左）と父の孝文さん＝習志野市の屋敷小学校

在籍していた。半世紀近くたち、親子で関わるケースも出ている。

「鷺沼マリーンズ」の大村泰輝君と、弟の倫輝君（いずれも市立鷺沼小6年）はチームの主力選手。双子の兄弟で、父でコーチの功治さん（44）もチームの前身「鷺沼ジャイアンツ」で少年野球をしていた。「あのころの自分を息子たちが超えていくのが楽しみ」と笑う。

功治さんの少年時代のチームの総監督が、現在の連盟の中川内由則会長だった。功治さんは「練習は厳しかった」と振り返る。野球好きは大人になっても変わらず、父親になって息子たちと野球を始めると、自然と地元チームに参加した。「子どものころに戻ったように、チームの子供たちともう一度、野球を楽しんでいきます」

半世紀の間に変化も起きている。女子選手たちの活躍だ。「習志野フェニックス」の釈迦堂愛琴さん（市立屋敷小6年）はエース。抜群の制球力で、男子とともに習志野市新人大会で優勝し、少年野球の甲子園と呼ばれる「全日本学童軟式野球大会」の県予選に出場した。「もう私より肩は強いです」と、父でチームのコーチを務める孝文さん（48）は喜ぶ。

鹿児島県出身の孝文さん

は高校球児だった。当初は長男と習志野フェニックスに入った。すると、兄を目標に野球に取り組んだ愛琴さんがめきめきと力をつけた。「習志野の少年野球には様々な大会や選抜試合があり、育ててもらえる。野球少年少女にはとてもいい環境です」

第50回夏季大会は16チームが参加。27日午前8時45分から、市内の第一カッター球場で開会式があり、決勝は8月3日の予定。

（三嶋伸一）

令和元年7月23日付  
朝日新聞【千葉首都圏】より  
コピーさせて頂きました。